

全連小京都大会についてご報告いたします。

今年全連小京都大会は、10月29日及び30日に、京都市勧業館「みやこめっせ」をメイン会場に開催される予定でしたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、誌上発表という形になりました。本来でしたら、北海道からも各地区10%の割り当てで参加するはずでした。

さて、京都大会では、北海道から二つ、誌上で研究発表をしております。本日の資料に、京都大会要覧の一部を掲載しておりますのでご覧ください。

一つ目は、第2分科会にて、士別市立多寄小学校 森 広明 校長先生が、「学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと校長の在り方～士別市校長会の取組を通じた活力ある学校組織マネジメント」と題して発表してくださいました。実践事例として、校長会が市教委や市の教育研究団体と強く連携することにより、士別市の教育の質的向上を目指す取組や、主体的で活力ある管理職人材、ミドルリーダーの育成を図る校長会の取組などが紹介されました。また、意欲的で主体的な組織づくりを行うために、学校経営ビジョンの提示や校務分掌組織を工夫・改善する取組も紹介されております。

二つ目は、第13分科会にて、函館市立湯川小学校 畑中 雅昭 校長先生が、「家庭・地域等と連携・協働による『地域とともにある学校づくり』に関わる校長の役割～「コミュニティー・スクール100%元年」における校長の関与について～」と題して発表してくださいました。函館市では、昨年4月に全ての市立学校・園でコミュニティー・スクールが導入され、「コミュニティー・スクール100%元年」の取組が始まりました。校長がリーダーシップを発揮しながら、組織を立ち上げ、運営・推進する体制をつくり、家庭・地域との連携や協働を深め、学校段階等間の接続や連携を推進する、これらの過程で多くの苦労を重ねながら課題を解決していった営みを誌上から読み取ることができます。

改めて、研究を進めていただいた上川地区と函館市の校長会の皆様に感謝を申し上げ、執筆いただいた森校長先生と畑中校長先生に感謝と敬意を表し、私からの報告といたします。